

ナラ枯れ被害木のホダ木等への利用に係る実証試験について②

1 はじめに

宮古市では、2次燃焼機能付きストーブの導入に対し、その経費の1/3(上限10万円)を補助する事業を継続して実施しており、これまでの補助実績が130件を超えているなど、安定した薪の需要があります。

ナラ枯れ被害の拡大に伴い、薪ストーブの利用者がナラ枯れ被害材を利用することも十分に考えられ、このことが被害の拡大を助長する危険性があります。

このため、ナラ枯れ被害の拡大を防ぎながら、被害木の有効活用を進めるため、ホダ木利用と併せ、薪材利用の実証試験を開始しました。

2 薪材利用の実証試験について

今年度枯死したナラ枯れ被害木の3本について、長さ1mの検体をカシノナガキクイムシの穿孔数の多い根元から3本ずつ計9本採取しました。ホダ木利用試験と同様に穿孔数のプロット調査し、そのうちの1本を割材して約30cmの薪材を作成し、その約半分をカシノナガキクイムシ幼虫捕獲のためネットで包みました。



今後、薪からの幼虫等の落下数や重量の変化を毎月確認し、約1年経過後の生息数を調査する予定です。

3 検体の加害状況等について

今回調査した検体9本のうち、穿孔数が最も多かった検体は21個、最も少なかった検体は11個でした。

割材したところ、カシノナガキクイムシは、心材には



穿孔しておらず、辺材にのみ生育していること、割材すると相当数の幼虫が落下することが確認できました。



このことから、薪材への利用により殺虫効果が期待できるほか、心材であれば流通できる可能性が見えてきました。

4 今後の予定について

今回12月に検体の一部を割材しましたが、今後、2月と5月に残った検体を順次割材し、幼虫の生育状況や、割材後の生息数の変化を調査し、どのように処理すれば、最も高い殺虫効果が得られるか等について検討していきたいと考えています。

